

横浜市における「地域循環共生圏」の実装

～公民連携によるオープンイノベーションによって～

横浜市 政策局 共創推進課



— サイバー空間とフィジカル空間の融合により、地域から人と自然のポテンシャルを引き出す生命系システム —

 **新たな価値とビジネスで成長を牽引する地域の存立基盤**

人々が健康で生き活きと暮らし幸せを実感することで、地域が自立し誇りを持ちながらも、他の地域とも有機的につながることにより、国土の隅々まで豊かさが行きわたる。

[illegible]

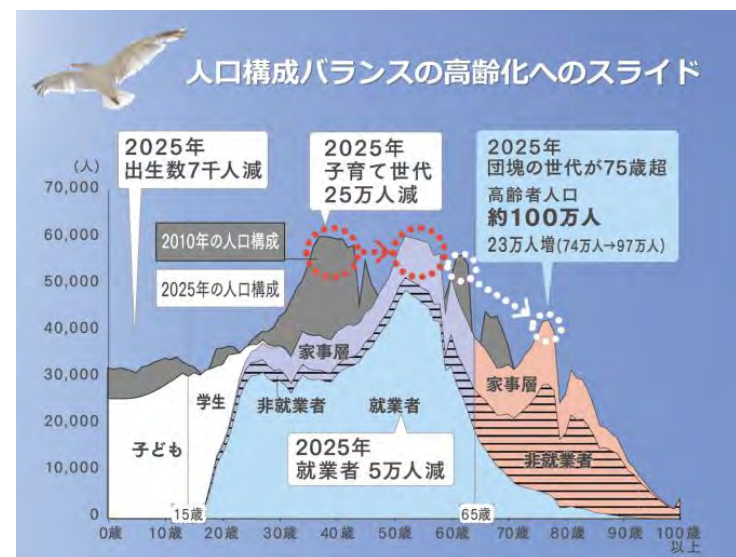
持続可能な未来に向けて横浜が抱える3つの課題

1 超高齢・人口減少社会の急速な進展

2025年には65歳以上の高齢者人口が約100万人となり、2019年を頂きに、市域の人口は緩やかに減少し始める。また世帯の単身化が急速に進んでいる。

2 首都・TOKYOの「侵略」

20世紀後半に東京の経済・文化圏に完全に飲み込まれ、21世紀に入ってから、30歳・40歳代の働き盛りの人口を東京奪われ続けている。



3 気候変動とグローバル化による災害の頻発・甚大化

地球温暖化の影響で、首都圏でも想定外の風水害に襲われるようになると共に経済のグローバル化によって感染症によるパンデミックが引き起こされやすい状況が生まれており、災害の頻発・甚大化が進んでいる。

横浜が直面する3つの課題への対応の方向性

1 TOKYOから自立した社会・経済圏の確立

横浜固有の歴史・文化やランドスケープ、コミュニティに根差した都市再生と環境創造の取組を最先端のテクノロジーとデータ活用によって、革新的に展開することで、TOKYOから社会経済的に自立する。

2 多様な主体によるオープンイノベーションの推進

企業、NPO、大学などの、多様な民間主体と行政が対話を通じて連携を進め、それぞれの持つアイデアやノウハウ、資源などを活用することで、社会や地域の課題に対し、新たな価値や解決策を共に創り上げるオープンイノベーションを推進する。

3 サーキュラーエコノミー(plus)の展開

地球温暖化による気候変動に対応するため、環境にも経済にも持続可能性を持たせる新しい経済活動として、横浜ならではのサーキュラーエコノミーを展開する。

サーキュラー・エコノミーplusの概念図



提案を実現するために横浜市が提供する3つの仕組み

○提案を受け入れ、橋渡しする窓口としての 「共創フロント」

「対話」の窓口&橋わたし「共創フロント」

- ◆ 「共創」を進めるための仕組みとして「共創フロント」を設置
- ◆ 「共創フロント」とは、横浜市と民間の皆様とが互いに対話を進め、横浜市が抱える様々な課題の解決や新たなビジネスチャンスの創出等に取り組むために、**民間の皆様からの相談・提案を受け付ける窓口**
- ◆ 「共創推進室」が、提案の実現化に向け**橋渡し役**となって調整を行う。



20

○多様な主体との対話の場を創る 「共創ラボ」、「リビングラボ」



○プロジェクトの実現を支援する 「LOCAL GOOD YOKOHAMA」

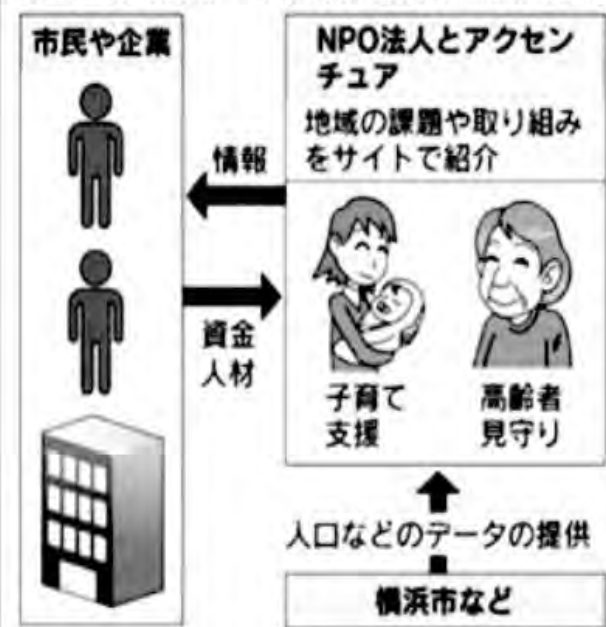


横浜のまちづくり 市民の力で

NPO法人の横浜コミュニティデザイン・ラボ（横浜市、杉浦裕樹代表理事）とアクセンチュアは、横浜市内のまちづくり活動などの資金や人材をインターネットで市民らから募るウェブサイトを開設する。地域の課題や活動を紹介し、インターネットを通じて広く小口資金を集める「クラウドファンディング」などを手掛ける。行政だけでは手掛けにくい地域の課題解決に市民の力を活用する。

NPO法人とアクセンチュア

まちづくり活動への市民や企業の参加を促す



ウェブサイト「ローカルグッド ヨコハマ」は、2種類のコンテンツで構成。少子高齢化など地域の課題を紹介する内容。まず12日、地域の課題

地域の課題紹介サイト

資金・人材、ネット募集

日本経済新聞 地域経済
掲載日 2014年6月12日



LOCAL GOOD
YOKOHAMA

2014年10月下旬から
本格運営



市民活動も立体地図で

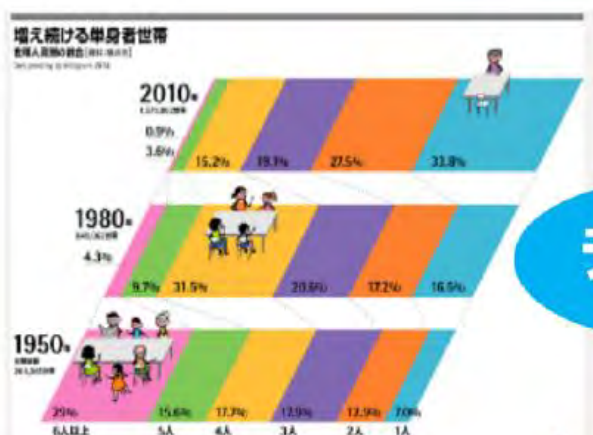
高齢化の進行が顕著な大規模団地、増える空き家など横浜市内の地域の課題を3Dマップ上に示し、解決に取り組む市民団体などの活動を紹介して、市民参加を促すウェブサイト「LOCAL GOOD YOKOHAMA」が開設された。12日から一般公開を始め、ウェブサイトで「ローカルグッド ヨコハマ」は、少子高齢化など地域の課題を紹介する内容。まず12日、地域の課題

地域課題ウェブに

高齢化団地、空き家…

神奈川新聞 掲載日 2014年6月14日

コンテンツの概要



(引用元「LOCALGOOD YOKOHAMA」Webサイト)



ローカルグッドコミュニティ
2014.07.24
10:00-18:00 (最終日)
LOCAL GOOD CAFE - ローカルグッド IN いのちの木(仲町台)
市内各地で、その地域の歴史・文化・産業・そしてローカルグッドの魅力を伝える
活動として、いのちの木に「LOCAL GOOD CAFE」を開店いたします。



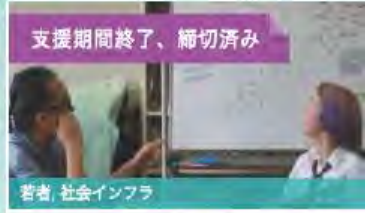
ファール ニエンテ「みんなの庭」プロジェクト

プロジェクトオーナー：萩原 達也
剪定 その他

2014年11月下旬、横浜市営地下鉄ブルーライン・下飯田駅（横浜市東区下飯田町829）のすぐ近くに、...

達成金額

321,500 円
161%



有給職業体験プログラム「バイターン」実施プロジェクト

プロジェクトオーナー：石井正宏
取材、執筆 文章校正 編集 ウェブサイト制作・デザイン システム開発・運用 サイト運用・管理・保守

「バイターン」とは職業的経験であるアルバイトと、企業内の教育的なインターンシップをかけたあわせた新し...

達成金額

1,000,000 円
167%



いのちの木「おばあちゃんの福みゆき社」設立に向けた「商品開発」プロジェクト

プロジェクトオーナー：岩永 敏郎
商品企画 市場、ニーズ調査 手芸、ミシン ウェブサイト制作・デザイン システム開発・運用 サイト運用・管理・保守

横浜市営地下鉄ブルーライン仲町台駅そばにあるコミュニティカフェ「いのちの木」（横浜市都筑区仲町台）に...

達成金額

426,800 円
142%



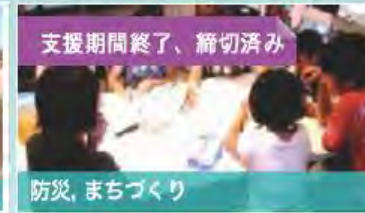
青葉区発信おみやげプロジェクト

プロジェクトオーナー：櫻井 友子
商品企画 広報 写真撮影、加工 動画撮影、配信 動画編集、加工 インターネットでの情報発信、広報 イベント企画 イベント運営 ウェブサイト制作・デザイン システム開発・運用 サイト運用・管理・保守

落ち着いた住宅地から少し離れると、田畑があちこちに残る横浜市青葉区。横浜市18区のうち、最大の水稲...

達成金額

1,013,000 円
184%



「サバイバルジュニアワークショップ」実施のための、子どもたちによる東北被災地取材ツアー

プロジェクトオーナー：Akiko Iwamura

写真撮影、加工 動画編集、加工

私たち、NPO法人「ミニシティ・プラス」（横浜市都筑区中川）は、2007年から子どもの力をまちづく...

達成金額

385,000 円
128%

クラウドファンディング 資金調達 + スキル支援 2014年10月末スタート。これまで全ての案件が目標金額達成！

クレジットカード、銀行・郵便の振込、イベント会場での寄付、現金書留による資金支援

WEB制作、イベントスタッフ、事務局サポート等の多数のスキルマッチング

横浜型リビングラボとは何か？

- ◎多様な官民の主体が連携し、対話や実証実験によって、深刻化する地域課題に対する新たな解決策を生み出すための事業
- ◎地域の民間主体（主に地域生業企業）が、課題解決を行政に委ねてしまうのではなく、共創的なビジネスモデルを生み出すことによって成し遂げようとする取組
- ◎SDGsの視点を踏まえ、データと最新のテクノロジーによって、
「サーキュラー・エコノミーplus」を広く展開していくための運動

事例1 戸塚リビングラボ

タイプ	地域包括ケア型
設立年月	2017年2月
拠点	参加メンバーが運営する施設や公共施設
主体	NPO法人こまちぷらす、NPO法人ふれあいドリーム、横浜薬科大学、（株）ツクイ、他
主な取組内容	介護サービスのイノベーション、エリアマネジメント



定例ミーティングの様子

- ▶ 戸塚区の**介護・子育て・障害**等をテーマにして、企業、NPO、社会福祉法人大学等の多様な主体が連携しながら、課題や社会資源の可視化や情報共有、新たなサービスや事業の創発などに取り組む。
- ▶ 月1回程度の定例的な会議の開催のほか、「介護・子育て・障害」をテーマにしたフューチャーセッションの開催、活動の成果を広く発信する場としての「とつか未来会議」の開催、新たな福祉サービスを創発するための実証実験への協力など活発な活動を行っている。

事例2 井土ヶ谷リビングラボ

タイプ	エリアマネジメント型
設立年月	2017年6月
拠点	井土ヶ谷アーバンデザインセンター
主体	(株) 太陽住建を中心とした地元の小中学校、自治会、企業、子育て系NPO等
主な取組内容	空き家活用、働き方改革、等



- ▷ **誰もが生き生きと活動できる学びの場づくり**
- ▷ 従業員8名の市内中小企業が、社屋の一部を地域に開放し、区内の小中学校や自治会、NPO等と連携して展開中。
- ▷ 「**誰一人取り残さない教育**」を活動のテーマに掲げ、仮に病気や障害、貧困に直面している子ども達でも、誰もが地域で生き生きと学ぶことのできる場づくりを実践中

事例3 磯子・杉田リビングラボ

タイプ	エリアマネジメント型
設立年月	平成2018年 9 月
拠点	Yワイひろば
主体	磯子区社会福祉協議会、(株) 太陽住建、自治会、地域ケアプラザ、NPO等
主な取組内容	地域包括ケア、空き家活用、等



▷ 空き家を活用したリビングラボ

- ▷ 磯子区中原にある空き家を、コミュニティスペース及びコワーキング・スペースへとリノベーションして活用。1Fコミュニティスペースは、地域ケアプラザや社会福祉協議会等の協力を得て、地域の高齢者が多世代と自然に交流できる拠点となっている。

事例4 都筑リビングラボ

タイプ	地域包括ケア型
設立年月	平成2018年 3 月
拠点	アーモンドホープセンター、東京都市大学横浜キャンパス、町工場のカフェIDEN
主体	障害に直面する当事者、NPO法人アーモンドコミュニティネットワーク、東京都市大学環境情報学部、小池研究室、(株)スリーハイ 等
主な取組内容	困窮者自立支援



- ▶ 都筑区内のNPOと工業団地、大学、そして障害に直面する当事者が連携することで、仮に障害を抱えていても、生き生きと創造的に働くことのできる機会と場の創出を目指している。
- ▶ 誰もが創造性を発揮できる「**モノづくり**」をテーマに工場や大学でフューチャーセッションやワークショップを展開している。

事例5 青葉台リビングラボ

タイプ	地域包括ケア型
設立年月	平成2018年 6 月
拠点	区内コミュニティハウス、区役所会議室、アオバ住宅社社屋
主体	アオバ住宅社、NPO法人パノラマ、富士ソーラーハウス（株）、青葉台商店会、プロボノ集団スパイスアップ等
主な取組内容	困窮者自立支援



- ▶ **生活困窮者の住宅・就労支援**を事業として行う街の不動産事業者を中心に商店街、NPO、企業が連携して、仮に困難を抱えていても誰もが、社会経済的に自立し包摂される地域社会を目指して活動している。
- ▶ 困窮していると当事者の状態やニーズに併せて、柔軟に対応できる社会的セーフティネットをフューチャーセッションやワークショップを通じて形成中。

事例 6 いずみ野沿線リビングラボ

タイプ	エリアマネジメント型
設立年月	2019年 9 月
拠点	フェリス女学院大学、みなまきラボ、フタマタ・リバー・ライブラリー 等
主体	フェリス女学院大学、(株)Woo-By.StyLe、オンデザインパートナーズ、ブルーコンパス 等
主な取組内容	女性が主体となったコミュニティビジネスの活性化と街興し



- ▶ 女子学生や女性起業家など女性が主体となって「いずみ野沿線」のコミュニティビジネスの活性化や街おこしを展開するリビングラボ
- ▶ 相鉄いずみ野沿線を中心に大学と女性起業家及び企業が連携し、地域課題を解決したり、沿線をブランディングするための新たなビジネスを興すことで地域に多様な女性活躍の場を創出するために活動している。
- ▶ SDG s の視点から駅中のファーストフード店のスローフード化を目指して取り組んでいる。

事例 6 SDG s 横浜金澤リビングラボ

タイプ	エリアマネジメント型
設立年月	平成2018年6月
拠点	海の公園、京急金沢八景駅前広場、永島農園、八景市場 等
主体	NPO法人アマンダリーナ、永島農園、光栄堂薬局、東光禅寺、関東学院大学 等
主な取組内容	海と森の資源を活かした地域産品づくり、環境・農業体験型観光振興



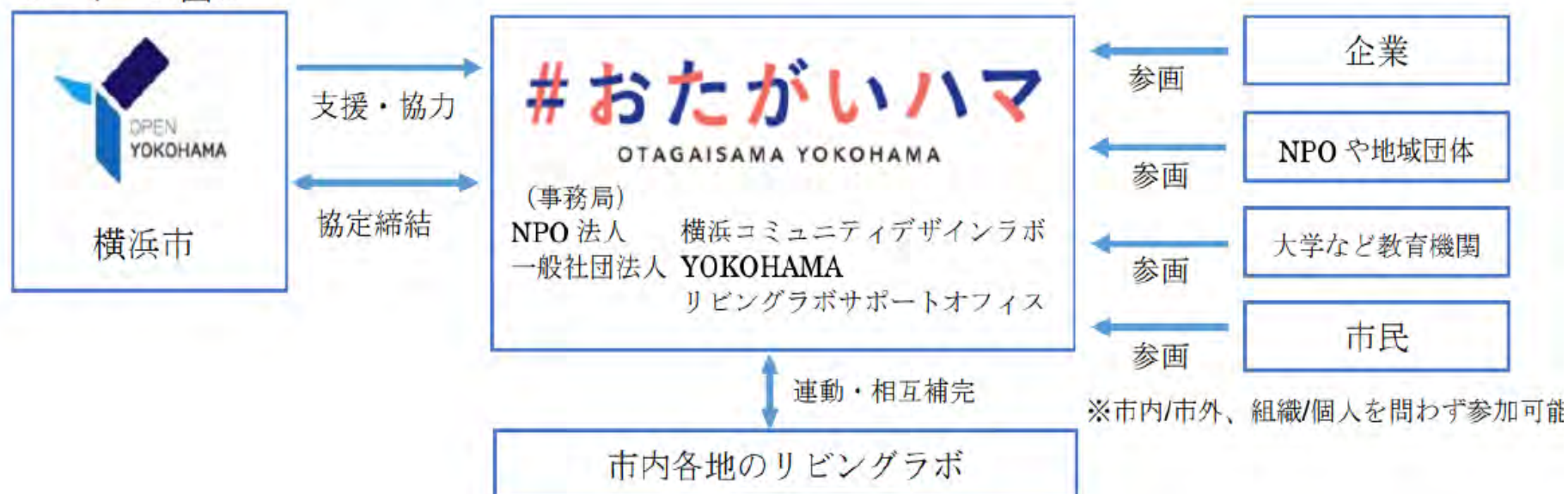
- ▷ **地産地消の逸品づくりと体験型観光まちづくりの場やプログラムを創発するリビングラボ**
- ▷ 農業者、NPO、地元商工業者、お寺、学校など多様な主体が連携し、市民参加型の栽培体験や収穫体験、食育体験を通じて「八景八味」など地域ブランドの賞品を開発
- ▷ 海の公園に打ち上げられるアオサやアマモを資源として肥料の開発とその肥料を活用したトマト栽培のテストベッドに取り組んでいる。

「新型コロナウイルスへのオープンイノベーションによる課題解決に関する連携協定」

4 今後の展開について

- 市内/市外や組織/個人を問わず、本プラットフォームの理念に共感する仲間を広く募り、個人や組織が持つ強みやスキルを活かしながら交流を深め、具体的なアクションの創発を目指していきます。
- 各地域にて活動するリビングラボと連携し、本プラットフォームのブランチ組織として位置付けることで、より地域に根ざした活動を推進していき、各地域の状況に応じた取組を進めていきます。

<スキーム図>



問合せ先

【連携内容や協定について】	政策局共創推進課長	小池 道子	Tel 045-671-4394
【#おたがいハマについて】	#おたがいハマ 事務局	杉浦 裕樹	Tel 045-664-9009

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/seisaku/2020/0501otagaihama.html>

「新型コロナウイルスへのオープンイノベーションによる課題解決に関する連携協定」

2020年5月1日に3者協定締結

飲食店支援

物資寄付募集/寄贈

#おたがいハマ トーク

#おたがいハマ セミナー

#ICTお助け隊



新型コロナウイルスに向き合う産官学民の共創プラットフォーム

#おたがいハマ を横浜市として支援

記者発表資料 令和2年5月1日 政策局共創推進課

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/seisaku/2020/0501otagaihama.html>

RCE横浜 若者連盟 の協力で「#おたがいハマ」を運営しています



2020年9月4日金曜日 12:15~12:45

9/4 #おたがいハマトーク vol.87 若者の地域活動への参加を考える



7/1 #おたがいハマ トーク vol.46：緊急特番PART-2 大澤幸生さん（東京... 録画されたライブ動画 ...

LOCAL GOOD YOKOHAMA

緊急特番

PART-2

Vol.46

#おたがい OTAGAISAMA
YOKOHAMA



TALK!

2020年

7月1日(水)

12:15-12:45

お昼の30分間トーク番組!

ゲスト

大澤幸生さん（東京大学大学院システム創成学専攻教授）

再生



0:00 / 35:48



サーキュラー・エコノミーplusと地域循環共生圏を具現化するプロジェクト(例)

- 1 海の公園のアマモ・アオサの堆肥化と休耕農地を活用した「横浜オリーブプロジェクト」
- 2 スポーツセンターと病院が連携し、商店街と団地をつなぐ「ヘルスケアプロジェクト」
- 3 地産地消の飲食店を基軸にフードロスの削減と障害者の就労支援、高齢者や子どもの見守りを連携させて実現する「シェアご飯プロジェクト」
- 4 エネルギーの地産地消と災害に強い街を実現する「電気のお裾分け&コミュニティ避難所プロジェクト」

サーキュラー・エコノミーplusで実現する「地域循環共生圏」 ーリビングラボを通じた秋田県湯沢市との交流・連携ー

横浜⇔湯沢地域循環共生圏の形成へ

地域循環共生圏

- 各地域がその特性を生かした強みを発揮
 - 地域資源を活かし、**自立・分散型の社会**を形成
 - 地域の特性に応じて補完し、**支え合う**



横浜と湯沢が循環共生することで 生まれる相乗効果

- 湯沢の「地熱発電」(再生可能なエネルギー)の横浜へのシェアを通じた横浜のRE100の促進と湯沢の地方創生への寄与。
- 湯沢の「発酵文化」の横浜へのシェアを通じた横浜での新しい食文化の形成と湯沢でのインバウンド創出促進。
- 横浜の「持続可能なまちづくり」のノウハウの湯沢へのシェアによる湯沢での空き家や遊休土地の活用促進

■ WORLD LIVING LAB « INNOVATION OUVERTE ET RÉSILIENCE DES VILLES À L'ÈRE COVID ET POST-COVID »

World Living Lab「ウィズコロナ、アフターコロナ時代のオープンイノベーションと都市のレジリエンスを考える」

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大が地球規模で見たときに収束していく兆しがいまだに見えない中で、感染拡大防止に向けた取り組みも長期化が余儀なくされようとしています。こうした国難ともいえる未曾有の難局を乗り切っていくためには、市民一人ひとりが顔を上げて前を向き、共に支え合いながら未来を見据えた具体的なアクションを起こしていく必要があるのではないかと考えています。産官学民の多様な主体が連携し、データを駆使した対話と革新的なテクノロジーを導入した実践によって、新型コロナウイルスがもたらした社会課題に対して新たなソリューションを生み出し、新型感染症の拡大など様々な危機に対する大都市のレジリエンスを高めていくため、3日間に亘る国際会議を開催します。

11月6日(金) 11:45-13:00

「World Living Lab ～世界青年経済人会議」 会場：横浜市庁舎アトリウム

主催：一般社団法人横浜青年会議所 後援：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、横浜市 協力：ヴェオリア・ジャパン株式会社

11月7日(土) 16:00-18:00

「学術会議～新型コロナウイルス(COVID-19)とSociety5+」 会場：アンスティチュ・フランセ東京(予定)

主催：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、横浜市 オフィシャル・パートナー：ヴェオリア・ジャパン株式会社

11月8日(日) 13:00-17:00

「とつか未来会議 防災について平時からの連携をみんなで考えるシンポジウム」 会場：戸塚区総合庁舎3階 多目的スペース

主催：とつかりビングラボ 後援：横浜市政策局 協力：在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、ヴェオリア・ジャパン株式会社



*詳細は、アンスティチュ・フランセ横浜のHPにてご案内します。